

シン・十文字拠点基本構想(案)にお寄せいただいたご意見の概要と市の考え方

1. 募集期間 令和7年11月27日(木)～令和7年12月26日(金)  
 2. 提出者 12名、22件

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方(案)
1	全体	<p>十文字に住んでいる子育て中の母です。以前から、近くに児童センターが出来たら嬉しいなと思っていました。山形県の児童センターのように、大型にしてほしいです。雪国ですし、天気の良い日や今年は熊の被害も多く、中で思いっきり体を動かして遊べる施設がほしいです。児童センター巡りのために山形まで行っているのも、もし大型の児童センターが出来たら県外からもきつと来てくれるのではないかと思います。外には公園や水遊び場、砂場なども完備してくれると理想です。外でも安全に遊べるように、柵を付けたエリアもあるといいのかなと思います。冬の間はそり滑りや雪遊びが出来るように配備してもらえると年中遊べると思います。児童センターの室内は、赤ちゃんエリアとキッズエリアを分けて安全にしてほしいですが、赤ちゃんエリアにいつキッズエリアが見えるようにしてほしいです。年齢が違う兄弟を連れていくと、どちらかに合わせてどっちかのエリアに行くしかないことがあるので、下の子を安全な部屋でみつつ、上の子が思いっきり遊んでいる様子を見れるような配置にしてほしいです。</p> <p>しつこく山形の児童センターを出してすみませんが、本当にどこも大型で、子どもと一緒に大人も体を動かす機会になり良いなと思っています。</p> <p>また、山形県の児童センターに行くといつも温泉に入って帰りの車で子どもを寝かしつけて帰ってきます。温泉併設だと県外の方も利用しやすくなりそうです。宿泊施設があると県外の方ももちろん、十文字で飲み会をした時や友人家族の帰省時なども利用出来ると思います。</p> <p>図書館利用もたくさんさせてもらっていますが、駐車場までの距離が遠く、子どもを連れて雨の日や雪の日は苦戦します。児童センターに併設の図書館にしてもらえるとうれしいです。</p> <p>あおなのような、と言ったら類似のものは作れないかもしれませんが、子どもだけの図書館利用スペースがあると良いです。今の図書館だと子どもに読み聞かせをする際に、ひそひそ声で話さないとならず気を遣います。靴を脱いでくつろげるスペースを広くしてほしいです。</p> <p>畳のスペースみたいな部屋を設けると高齢者の方なども利用しやすいのかなと思います。</p> <p>体育館も設けていると、勉強で疲れた学生さんなどがリフレッシュ出来たり、イベントの開催もできるかと思えます。健康の駅も併設すると健康への意識向上にもつながるでしょうか。ふるさと村でイベントがあっても、天気が悪いと中で遊べる場所がほとんどなく、結局ワイワイプラザの児童センターに行くという流れになることが多いです。ふるさと村には魅力がたくさんありますが、イベントのついでに何か出来ることって少ない気がします。ご飯を食べようと思ってもテーブル席が多く、赤ちゃん連れは少し大変かなと感じます。テーブル席や靴を脱いでゆっくり出来るスペースのある、カフェや子ども食堂などもあるとお昼を挟んでまた児童センターで遊べたり、図書館に行けたりして良いかと思えます。ふるさと村であるようなお菓子フェスや太鼓フェスなどがあると、県外の方にもお店や文化を知っていただけるのではないのでしょうか。これらの理想が現実になったら、横手市に住みたい方も増えると思います。</p>	<p>基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしております。この基本構想では、ご提案いただきました児童センターは「子育て機能」、図書館や図書スペースは「学習機能」、体育館は「スポーツ・健康増進機能」といった機能を位置づけておりますが、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。</p>

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方(案)
2	全体	<p>現在、横手市には「ふるさと村」や「あお一な」など、魅力的な施設があることは十分承知しており、私自身も何度も利用させていただいています。しかし、実際に子育てをする立場として日常的に感じているのは、それらの施設だけでは「子どもが安全に、継続的に、天候に左右されず思いきり遊べる場所」としては機能が十分とは言えないという現実です。</p> <p>ふるさと村はイベント時には多くの人で賑わい、観光資源としても素晴らしい場所ですが、天候が悪い日や冬季になると、子どもが自由に体を動かして遊べる屋内空間に限られており、「遊ぶ場所」というより「行事を楽しむ場所」という側面が強いです。実際、雨や雪の日に訪れても、結局遊び場が足りず、他の児童センターへ移動するという流れになることが少なくありません。</p> <p>また、あお一なについても図書館機能としてはとてもありがたい存在ですが、子ども連れでの利用には気を遣う場面が多く、活発な年齢の子どもにとっては「静かにしなければならない場所」となってしまう、のびのびと過ごせる環境とは言いづらいのが現状です。読み聞かせの際もひそひそ声にならざるを得ず、親子も緊張を伴う時間になってしまいます。</p> <p>さらに、雪国である横手市では、屋外遊びが制限される期間が長く、加えて近年は熊の出没など安全面の不安も増えています。その中で、天候や季節、自然環境に左右されず、安心して子どもを遊ばせられる屋内型の大型施設は、もはや「あると便利なもの」ではなく、「子育て環境を守るために不可欠なもの」と感じています。</p> <p>現状の施設はそれぞれ役割が違い、「観光」「図書」「イベント」「展示」といった機能は充実している一方で、「子どもが主役となり、思いきり身体を使って遊べる常設の大型空間」は明らかに不足しています。だからこそ、山形県の大型児童センターまで足を運ぶ家庭が少なくないのだと思います。もし横手市に同様の施設が整備されれば、市外・県外からの利用者も増え、結果的に地域の活性化にもつながることは十分に期待できます。</p> <p>また、単なる遊び場ではなく、児童センターを中心に図書館、休憩スペース、飲食、温泉、さらには宿泊機能などを組み合わせた複合施設になれば、子育て世代だけでなく、高齢者や観光客、帰省者にとっても「訪れたい・滞在したい場所」となり、横手市の魅力をさらに高める拠点になると考えます。</p> <p>既存施設があるから十分、ではなく、「既存施設では補いきれていない役割を担う場所」としての大型児童センターの整備は、未来の横手を支える子どもたちと、その家庭を守るための重要な投資ではないでしょうか。子どもたちが安全に、自由に、そして笑顔で過ごせる場所を確保することは、地域の持続的な発展にも直結すると強く感じています。</p> <p>一方で、財政負担が大きくなることで計画そのものが難しくなるのでは、という懸念も理解しております。そのため、すべてを一度に整備するのではなく、まずは「子どもが安全に遊べる屋内空間の確保」を最優先とし、必要最低限の機能から段階的に整備していく形でも十分に意義があると考えます。</p> <p>将来的な拡張を見据えた設計とすることで、初期費用を抑えつつも、利用状況や市民ニーズに応じて機能を追加していくことが可能になります。無理のない規模・予算の中でスタートし、「地域に本当に必要とされる施設」として育てていく考え方がこそが、現実的かつ持続可能な整備につながるのではないのでしょうか。</p> <p>子どもたちの遊び場は、ぜいたくではなく、安心して子育てできる環境を支える“基盤”です。過度な負担を避けながらも、将来への価値ある投資として、前向きな検討をお願いしたいと思います。</p>	<p>豪雪地帯である本市においては、夏の猛暑や熊の出没等によって、冬季に限らず夏季においても屋外で過ごすことが困難な状況にあり、子どもが天候に左右されずに元気にのびのびと遊んだり、体を動かしたりすることができる環境は、こどもの健やかな成長にとって重要であると考えております。</p> <p>基本構想においても、「シン・十文字拠点」に導入する機能として「子育て機能」を定めており、屋内型の児童遊戯施設もその機能を果たす施設の一つであると認識しておりますが、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。</p>

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方(案)
3	全体	<p>子供が季節関係なく屋内で遊ぶことができる施設。 夏は猛暑、秋は熊の出没、冬は雪に覆われる横手市は外で子供が遊ぶことはとても難しい環境だと思えます。 他には無いような魅力ある施設を整備することで道の駅等と連携することで観光の面でも人を呼ぶことができると思います。 また、十文字B&amp;Gのプールは使用できない状況となっており、市内の誰でも使えるプールは南部シルバーエリアのみです。南部シルバーエリアも子供向けの箇所は少ししか設けられていないため利用しづらい。そこで屋内で大人から子どもまで利用できるプールを整備してほしい。</p>	<p>基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしており、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。 「道の駅十文字」との連携については、「シン・十文字拠点」のコンセプトや将来像を達成するために必要不可欠であると考えており、相互に機能を補完し合い、観光面のみならず相乗効果を生み出すことができる拠点を目指してまいります。</p>
4	P36 「道の駅十文字との連携」について	<p>Bエリアは道の駅のために駐車場を拡張したらいいと思う。</p>	<p>「道の駅十文字」の駐車場につきましては、土日祝日やイベント開催時には駐車スペースが不足しており、そのような状況を少しでも緩和するため、誘導員や看板の設置、隣接する十文字地域局の駐車場をご利用いただくといった対応を行っております。「シン・十文字拠点」の整備において、現状の課題を解消するためにも「道の駅十文字」との連携や十分な駐車スペースの確保は必要不可欠であると考えており、交通手段に関わらず、「シン・十文字拠点」エリアを訪れる方がアクセスしやすい交通機能を検討してまいります。</p>
5	P31 「子育て機能について」	<p>小さい子どもたちが安心して遊べるような屋内施設があるといい。山形県にはそういう施設が多くある。図書館に接続されているといいと思う。</p>	<p>基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしております。 「シン・十文字拠点」に導入する機能において、ご提案いただきました小さい子どもたちが安心して遊べるような屋内施設は「子育て機能」、図書館は「学習機能」といった機能を果たす施設であると考えますが、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。</p>
6	P36 「既存施設の利活用」	<p>旧十文字第一小学校が使えるのであれば、幅広い年齢の子どもたちが自分たちに合った遊び方ができるようなものが考えられる。屋内で鬼ごっこができたり、かくれんぼができたりする階があったら楽しいと思う。グラウンドは芝生公園にして、キャンプをしたり、天気の良い日には敷物を敷いてお弁当を食べられるような公園(広場)になるといいと思う 宿泊できるような簡易施設(釣りキチ三平の里体験館のような)に改造して、テニスや相撲、陸上の合宿を誘致するのどうだろうか。この地区は、スポーツ少年団活動が活発な地区なので、招待試合等の際の宿泊施設としても活用できる。</p>	<p>旧十文字第一小学校などの廃止された既存公共施設活用の可否につきましては、施設の現況を踏まえ、安全性や維持管理費用、採算性などを考慮しながら検討してまいります。</p>
7	P1 基本構想の背景と目的	<p>地域住民が日常生活を送る上で利便性が高く、暮らしやすい環境を形成するとともに、東北各地からの交流人口の拡大も視野に入れながら、各世代が集い、楽しめる拠点の整備を進める目的がはっきりしていてよいと思う。これは、地方都市の拠点として大切なことだと思う。</p>	<p>基本構想で示した「シン・十文字拠点」のコンセプトや将来像の実現を目指し、整備を進めてまいります。</p>
8	P9 中学生によるワークショップ	<p>将来的な利用者の中心となる若者に将来の地域のあり方を考えさせ、意見を聞くことは良い機会だったと思う。 3回にわたって話し合い、発表した割には、P26の「ワークショップにおける意見」3行だけになったのが残念だ。若い世代の意見をどのように生かすのかが分からない。意見の中に「……他の地域にはない新たな武器を造りたい」とあるが、どのような武器を考えていたのだろうか。全体として、もっと深く考えさせる事が必要なかと思ってしまった。また、この会のまとめの講師の先生の話も発信して欲しかった。</p>	<p>中学生によるワークショップにつきましては、将来の利用者となる中学生及び高校生の意見やアイデアを参考にしたいという主旨で実施したものです。ワークショップの進行を務めていただいたファシリテーターの方には、講師としてではなく、中学生が意見を出しやすいよう進行する役割を担っていただきました。中学生による意見の詳細な内容については、市のホームページにおいて「ワークショップ実施報告書」を公開しております。 なお、「他の地域にはない新しい武器を造りたい」という意見は、第2回ワークショップにおいて出された意見ですが、具体的な内容は以下のとおりです。 ・釣り堀、デイズニーランド、カラオケ、映画館など様々な遊ぶ場所が欲しい。 ・電動スクーターなどの移動手段や、岩手や宮城とつながる電車が欲しい。 ・(オンラインで簡単に注文ができる)フードデリバリーサービスがあると良い。</p>
9	P16 (3)産業 ①市町村内総生産の経済活動別構成(横手市全体)	<p>横手市と秋田県を比較しているが、問題は十文字地域であるので、載せるとしたら旧十文字町の総生産のグラフが必要なのではないかな。</p>	<p>「シン・十文字拠点」は、十文字地域の中心拠点としての役割だけでなく、横手市南部の拠点として広域的な交流拠点の役割を担うことを目指しております。そのコンセプトを踏まえ、十文字地域のみの統計データがない場合は、秋田県及び横手市の現状を示す図を記載しております。</p>

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方(案)
10	P18 ③事業所数・製造品出荷額(横手市全体)	今回の提案には、この項目は必要ないのではないかと、ただ、資料を載せているだけに感じる。基本構想に同様の意味のない表グラフの資料が多い感じがする。要点をもっと整理してポイントをまとめて資料にすると良いと思う。	P11「①総人口」やP12「②将来の人口推計」、P19「④総農家数及び農業産出額(横手市全体)」も踏まえて、事業所数や年間商品販売額が減少傾向にあることから、今後の生産年齢人口の減少による労働力の確保や事業承継が困難になるといった課題を示すための参考として記載しております。
11	P21 交通 ①公共交通	デマンド交通の考察が出ているが、利用者数の表からは、十文字地域乗降者が3196人と最も多い。その理由は考察されていない。何のためにデマンド交通を使って十文字に行くのか、私なりに考えると、買い物・病院が多いのだろう。それも高齢者が多いのではないかと思う。十文字に行くとなると地域的には、陸合・植田地区からと考えられる。地域を走る路線路線バス(路線タクシー)は、病院の予約時間に合わない・スーパーの開店時間に合わないなどが考えられる。スーパーラッキーが走らせているバスは毎回多くの人が乗っているからそれがわかる。 また、十文字から横手に行く人が806人、横手から十文字に帰る人が369人。横手に行く人は平鹿病院やイオンなどのスーパーだろう。当然、診療の予約時間もあるし、十文字から公共交通機関を使うと、時間が合わない、何度も乗り換えなくてはいけない。または、長い距離を歩かなくてはいけない。デマンド交通で何人かで乗り合わせて行く方がいいたろう。帰りはのんびりバスや電車を使うだろう。買い物をするとまた荷物もあるので、バス・電車は必要になる。または、家族等の迎えの車で帰ることも考えられる。 このように、これから一層増えると予想される、自家用車をもたない高齢者への配慮を考えなくてはいけないというのが私の考察である。	令和5年8月に実施した「横手市地域公共交通に関する市民アンケート調査」におきましても、通勤・通学や買い物など日常生活における移動手段について、15～19歳や70歳代、80歳以上では「地域公共交通」「家族の送迎」の割合が多くなっていることから、日常生活における移動手段として、市民生活を支える公共交通の役割とその重要性は、今後より大きくなっていくものと考えております。 学生や高齢者の方など、自家用車を持たない方でも「シン・十文字拠点」エリアへ気軽に訪れることが可能な手段について、公共交通の視点なども踏まえながら検討してまいります。
12	P22 交通 ②道路	国道13号線、高速自動車道が中心に考えられているが、県道13号湯沢雄物川大曲線、県7植田平鹿線がこれからますます整備をされ、これからは重要な路線と考えられる。他地区からの交流をめざすのならば、この点も考えておく必要があるのではないだろうか。	国道13号線、湯沢横手道路のみならず、国道342号や県道湯沢雄物川大曲線といった県道も十文字地域はもとより「シン・十文字拠点」エリアへのアクセスにとって重要な道路であると考えており、道路網を活かして多くの来訪者を市外・県外から呼び込めるような拠点を目指してまいります。
13	P24 十文字地域の特徴と課題	概ね良くまとめられていると感じる。 ・生活利便では、新しいまちをつくる上では、将来を考えて、施設の解体・跡地の活用方法などを進めていかなければいけない。現在もっていないと考えていても、近い将来には邪魔になる建物もあると思う。その点を考慮しなくてはならないと思う。 また、子ども、若者・お年寄りがゆったりで生きる広い公園があるとよい。当然近隣の人だけでなく他市町村・県外からも来て使えるように大きな駐車場・トイレの設備の考えることが大切だろう。 ・産業(特徴)では、特徴の中に、発酵食品(味噌・豆腐・麴)などの文化も書き加えて欲しい。 農業では、農業法人またはそれに近いグループでの活動も付け加えたい。 商業では、これからの若者の就職先として、大型スーパーや、地域に根ざしたスーパー、商店・小売店など	ご提示いただいた特徴や課題を今後の検討に活かしてまいります。
14	P31 導入する機能の概要 学習機能 具体的な施設例	図書館・図書スペース・ワークスペース Wi-Fiが使える場所、パソコンが使える場所(仕事・学習)、自由に作業ができる場所があるといふ。	基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしております。「シン・十文字拠点」に導入する機能として「学習機能」を定めており、ご提案いただきました図書館・図書スペース・ワークスペースもその機能を果たす施設の一つであると認識しておりますが、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。
15	P36 今後の検討課題 道の駅との連携・交通課題の解消	道の駅十文字は、県内外からの訪れる集客力のある施設ですが、ほとんどが車での来場です。この施設等を生かして「シン・十文字の拠点」とするならば、当然大きな駐車場が必要となります。トイレも現在のものでは不足するでしょう。また、十文字駅からの集客も考えるならば、徒歩15分は速すぎます。野菜等のお土産を買ったとしたら、もって歩くのは大変でしょう。当然十文字駅と道の駅との交通手段も必要です。徒歩で行くとすると、十文字駅から道の駅までの店(ショップ)が連なっていると魅力があると思います。都会にある〇〇商店街のようなものです。のんびり食べながら歩いて、飽きないようにいろいろな商店(店)があると良いと思います。当然再開発も考える必要があります。途中には気軽に入れるトイレがあるとより気安くなると思います。施設面だけではなく、来る人の気持ちも考える必要があると思います。 「十文字駅の利用者が、車以外の方法でアクセスできるよう、公共交通などによる利便性の向上も検討」とありますが、どのようなものがかんがえられるのかも載せて欲しいです。	「道の駅十文字」の駐車場につきましては、土日祝日やイベント開催時には駐車スペースが不足しており、そのような状況を少しでも緩和するため、誘導員や看板の設置、隣接する十文字地域局の駐車場をご利用いただくといった対応を行っております。「シン・十文字拠点」の整備において、現状の課題を解消するためにも「道の駅十文字」との連携や十分な駐車スペースの確保は必要不可欠であると考えており、交通手段に関わらず、「シン・十文字拠点」エリアを訪れる方がアクセスしやすい交通機能を検討してまいります。

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え方(案)
16	ページ番号指定なし	まずこのような事業展開があることを知らなかった。市の情報などはそれなりにキャッチしての方ですが…子どもから大人まで集まれるイベントができる施設、大きい室内遊び場などがほしいと思います。子育て中であり、子どもに関することがメインになってしまっていますが、県外からでも遊びに来てみたいと思えるような施設がほしいと思います。山形県はどの市でも魅力的な場所が多いです。自分は秋田県公認のあきた子育てアンバサダーもやっています。横手市の産後ヘルパー事業などもInstagramで県とコラが投稿などしています。幅広い意見の吸い上げ、一般人の参加なども検討していただきたいです。よろしく願います。	基本構想においても、「シン・十文字拠点」に導入する機能として「子育て機能」を定めており、屋内型の児童遊戯施設もその機能を果たす施設の一つであると認識しておりますが、導入する機能を果たすための具体的な施設内容については、今後の基本計画において検討してまいります。 また、基本構想につきましては、学識経験者や市民の方、関係団体による策定委員会を設置し、ご意見をいただきながら策定を進めておりますが、今後もパブリックコメントや住民説明会の実施などにより、引き続き市民の皆様のご意見をいただく機会も設けながら、検討を進めてまいります。
17	全体	雨・雪・熊・猛暑の時でも安心して走り回って遊べる屋内遊戯施設がほしい。ワイワイプラザがあるが、小さい子や大きい子も集まるため走り回ると危なかつたりして悠々と遊べない。 また、プールや温泉施設が欲しい。 シルバーエリアがあるが、子供が足をつける深さや、プールの中でも噴水や滑り台など楽しめる施設があるプール施設があったら嬉しいし、子どもたちも楽しいと思う 温泉施設に関しては遊んで汗かいたあとゆっくりできる子供連れでもゆっくりできる温泉施設があれば朝から晩まで一日中十文字で遊んで満足できるプランが立てられると思う。	豪雪地帯である本市においては、夏の猛暑や熊の出没等によって、冬季に限らず夏季においても屋外で過ごすことが困難な状況にあり、子どもが天候に左右されずに元気なびのびと遊んだり、体を動かしたりすることができる環境は、子どもの健全な成長にとって重要であると考えております。 基本構想においても、「シン・十文字拠点」に導入する機能として「子育て機能」を定めており、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。
18	P30	ハブ十文字として、外から人を呼び込む機能の中に宿泊施設がほしい。 安価で連泊出来る施設があれば、観光客や短期滞在してもらい、移住につながるかも。 特に首都圏会員の一時帰宅場所として利用もう。	基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしており、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、今後の基本計画において検討してまいります。
19	産業振興機能 (概要やターゲットに該当します)	私たちの活動拠点は「十文字西地区交流センター」のため電車などの交通機関を利用している人にとっては、移動手段が不便な場所にありますが(※現在、見学者が増えてきています)。 そのため、道の駅周辺に「十文字和紙」の作品や紹介パネル等を見ることができるといいと思います。 実際に、「十文字和紙」はどこで見ることができるの？という声も聞きます。また、私たちが対応できない日でも、常設することで「十文字和紙」を知ることができる場があれば、他県からも気軽に足を運んでもらえるのではないかと思います。 是非十文字町に残るものづくりにふれる場の検討をお願いします。	基本構想につきましては、「シン・十文字拠点」に導入する機能の考え方を定めるものとしており、導入する機能を果たすための具体的な施設内容につきましては、「十文字らしさ」を具現化するという視点も加えながら、今後の基本計画において検討してまいります。
20	全体	横手市の財政難の中 大規模なシン基本構想(案)には反対です。住民に対する負担が大きすぎる点や固定資産税の大幅な増額が予想されるからです。 十文字地区の市の空き地や まめでらかの道の駅のまわりに駐車場や町中キャンプ場をつくり防災公園として物資を貯蔵し地下に避難できる施設をつくって下さい。散歩や自転車を利用する弱者にやさしい町を目指してほしいです。	シン・十文字拠点整備事業につきましては、市の財政計画にもしっかりと位置付け、国からの交付金等を活用するなど市の財政負担の軽減を図りながら事業を進めてまいります。 基本構想において「シン・十文字拠点」の対象としたエリアは、「道の駅十文字」に隣接する公共施設跡地等の土地を対象としており、駐車場や防災公園といった「交通機能」及び「防災機能」を機能として導入するものとしております。近隣の住民の方のみならず、自家用車を持たない方や市外・県外から訪れる方もアクセスしやすい拠点を目指してまいります。
21	P2・P33	33頁のDBO方式とPFI方式をとるのに反対。 三菱商事が県の洋上風力発電から撤退したように民間企業が責任をもって大事業をとげるか信用できない。近年の円安インフレで数年後の資材コストも不透明。横手市民会館は事業費の高騰で移転を中断した。 高橋市長はゆっぶる、ゆとりおんなど不採算の市営施設を問題視してははず。 甘い見積もりで箱モノをつくり、民間に丸投げして事業半ばで撤退されては目も当てられない。するにしても2頁の「シン・十文字拠点エリア」のように市が独力でもできそうな身の丈にあうスケールが望ましい。	「DBO方式」及び「PFI方式」のいずれの方式につきましても、公共である自治体の役割として、事業の目的やサービス水準を明確に定め、契約に基づき民間事業者が責任をもって事業を遂行するよう確認・監督する必要があります。最終的な責任は自治体を負うことになります。 市の財政見直しや各事業手法のメリット・デメリットを踏まえ、「シン・十文字拠点」の整備に最も適した手法を総合的に比較検討してまいります。

No.	項目	ご意見の概要	ご意見に関する市の考え(案)
22	全体	<p>自治体である横手市が自らの構想の決定権者として「公共の福祉」の増進となるように施策を用心する義務がある、と解するべきだと思います。</p> <p>市が自ら「相談窓口」を開設して、それぞれ本庁舎内と十文字地域局内に専従の正規職員を若干名配置することで、住宅・保険・福祉・生活部門と連携してしっかりと一人ひとり丁寧に対応するならば、開発に伴う転居が必要な一人暮らし世帯に仮住居を提供する、四輪自動車に過度に依存しない十文字地域住民の生活手段の確保の5つだけは最低限の必須条件です。そこまで見通してはじめて、地域住民の要望、市民の要求に合った都市計画の構想成案といえます。ここまでが結論部分です。</p> <p>私は、横手市内に住所を有する周辺住民です。構想素案には住民参加で見直しを求める不支持側視点から意見書を提出します。そもそも構想を推進する支持者にとっても、無関心であったり消極的であったりする反対者の存在を許容することは、次のようなメリットがあります。批判や懐疑的な見方を表す不支持者に根回しをする、推進側が説得力のある論拠を明示すれば、広く衆知を集めて生かすことで構想成案の信頼性がより確かなもの向上させられるというメリットもあるはずですが。</p> <p>なお本意見書提出にあたっては適切な審議の上、市担当部局の回答を求めます。</p> <p>以下、その理由を述べます。</p> <p>本素案は一見すると国土交通行政に関連する整備事業のようであり、実際には立地適正化計画に関連して肝心な点として都市機能誘導区域で再開発の対象地を広げる企図があるように見受けられます。つまり、隣接する地域の住民や商店などのいわゆる周辺住民が、区域内で将来行われる再開発事業の過程や施設計画に関わる余地は制度的にはほとんどない。今後、十文字地域に参入する開発事業者にとっては、いかに地権者の同意を得るかが事業推進上の最重要課題なのであって、周辺住民から協力や支持を得ることは必ずしも重要視されているとは言えない状況になりえます。</p> <p>実にコンパクトな再開発計画と公共施設の民間委託の施設計画に関連する先行研究の中には計画上将来の利用者となる住民の需要に合致しなくなる、選択権がなくなる不利益を被る事態を問題視する論説があります(中山徹 2017,2018)。一部地権者と協力事業者の意向で主導され、推進側にいない一般地権者は結果として負担を背負うことになるとすれば、経済的に弱い地元住民や資本力の弱い地元個人業主などを区域内から転出させて、代わりに域外から高所得パワーカップルの共働き世帯、或いは富裕外国人等呼び込む事態になりかねません。移転後の固定資産税の高騰を招くなど、元からいた人の居住維持が困難になる可能性があるだけでなく、新たな不安要因として過度な自動車依存が地域にもたらす不測の事態として最悪の状況は、住宅に入りたくても入居できない住民が、自動車に寝泊まりするしかできない車中泊で暮らす方へ誘導され、小型キャンピングカー(RV)で駐車施設にその日暮らしを送る人たちが出現しないのか。現状は当区域も経済学でいうところの商業利潤や工業利潤が生じており、そこから住民税を納めていたり固定資産税を納めていたりする、商業や製造業の集まった地域をわざわざ事業リスクに晒してまで、失敗するかもわからない再開発に賭けるとした場合に、不良資産化したら副拠点の都市機能誘導区域に大穴があくことになりかねません。</p> <p>別の見方も考えられます。経済合理性よりも国防上の要請です。まめであらう道の駅十文字を2025年5月に政府が防災道の駅に指定した真意は、生物災害も含む特殊災害等の有事対応に活用するためです。次のパンデミックは架空想定ではなく2020年の新型コロナウイルス蔓延により現実の事象として捉えられるようになりました。現に農林水産省は毎年、高病原性鳥インフルエンザ防護に注意を呼びかけています。</p> <p>その例外的な緊急事態をはじめに、地域の構造を一変させるような事業手法がPFI(プライベート・ファイナンス・イニシアチブ)やDBOの民間委託です。独占や寡占が生じると選択できなくなり、ニーズに合致してなくても購入せざるを得ず、ニーズに合致したものを選択することが難しい、というわけです。この「拠点づくり」に参加しない選択をする権利を市民に保証することは可能ですか。概ね、やはり参加できないという市民の方は転出してくださいとなれば或種の零細所有者には「プラットフォームからの放逐」を意味しませんか。どの市でも市長のレガシーを残すことに元より私は賛成ですが、少なくともそれが不利益を被る住民には負の遺産にならないよう御再考を上申する次第です。</p>	<p>「シン・十文字拠点」の整備につきましては、地域住民の皆様が日常生活をおくる上で利便性が高く、暮らしやすい環境を形成するとともに、東北各地からの交流人口の拡大も視野に入れながら、多世代が集い、楽しめる拠点として整備するものであり、公共の福祉の増進に反するものではないと考えております。</p> <p>また、現時点で整備に伴う住民の転居は想定しておらず、自家用車等による移動手段を持たない方もアクセスしやすい拠点を目指しております。</p> <p>今後も、パブリックコメントや住民説明会の実施などにより、引き続き市民の皆様のご意見をいただく機会も設けながら、検討を進めてまいります。</p>